



組み込みパッケージキャプチャの設定

- [組み込みパッケージキャプチャの概要 \(1 ページ\)](#)
- [組み込みパッケージキャプチャの設定 \(1 ページ\)](#)
- [キャプチャされたデータのモニタリングとメンテナンス \(2 ページ\)](#)
- [機能の履歴 \(3 ページ\)](#)

組み込みパッケージキャプチャの概要

組み込みパッケージキャプチャ (EPC) は、ネットワーク管理者がデバイスを出入りするかデバイスを通るパケットをキャプチャし、パケットをローカルで分析するか、オフライン分析を行うために、パケットを保存してエクスポートできるようにするオンボードパッケージキャプチャファシリティです。キャプチャされたデータは .pcap ファイル形式で保存され、Wireshark などの標準的なパケット分析ツールを使用して分析できます。この機能は、パケットの形式に関する情報を収集することによって、トラブルシューティングを容易にします。また、アプリケーションの分析とセキュリティも容易にします。

組み込みパッケージキャプチャ (EPC) は、パケットのトレースとトラブルシューティングに役立つ組み込みシステム管理機能を提供します。ネットワーク管理者は、キャプチャバッファサイズおよびキャプチャする各パケットの最大バイト数を定義する場合があります。パッケージキャプチャレートは、詳細な管理制御を使用してスロットリングできます。たとえば、アクセスコントロールリストを使用してキャプチャ対象パケットをフィルタリングするオプションや、最大パッケージキャプチャレートまたはサンプリング間隔の指定などの詳細な定義を行うオプションが利用できます。



(注) パッケージキャプチャは、物理インターフェイス上の入力方向でのみサポートされています。ACL フィルタは、EPC を設定する前に設定する必要があります。

組み込みパッケージキャプチャの設定

組み込みパッケージキャプチャを設定するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable	特権 EXEC モードを有効にします。
ステップ 2	monitor capture capture-name access-list access-list-name	アクセスリストをパケットキャプチャのコアフィルタとして指定し、モニターキャプチャを設定します。
ステップ 3	monitor capture capture-name limit duration seconds	モニターキャプチャの制限を設定します。
ステップ 4	monitor capture capture-name interface interface-name in	接続ポイントおよびパケットフロー方向を指定して、モニターキャプチャを設定します。
ステップ 5	monitor capture capture-name buffer circular size bytes	パケットデータをキャプチャするようにバッファを設定します。サイズは最大100 MBです。
ステップ 6	monitor capture capture-name start	トラフィック トレース ポイントでパケットデータのバッファへのキャプチャを開始します。
ステップ 7	monitor capture capture-name export file-location/file-name	キャプチャされたデータを分析用にエクスポートします。
ステップ 8	monitor capture capture-name stop	トラフィック トレース ポイントでパケットデータのキャプチャを停止します。
ステップ 9	monitor capture capture-name clear	キャプチャされたバッファデータをクリアします。
ステップ 10	end	特権 EXEC モードを終了します。

例

キャプチャされたデータのモニタリングとメンテナンス

キャプチャされたパケットデータのモニタリングとメンテナンスを行うには、次の作業を実行します。キャプチャ バッファの詳細とキャプチャ ポイントの詳細を表示します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable	特権 EXEC モードを有効にします。
ステップ 2	show monitor capture capture-buffer-name buffer dump	(任意) キャプチャされたパケットの 16 進数ダンプおよびそのメタデータを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	show monitor capture <i>capture-buffer-name</i> parameter	(任意) キャプチャを指定するために使用されたコマンドのリストを表示します。
ステップ 4	debug epc capture-point	(任意) パケットキャプチャポイントのデバッグを有効にします。
ステップ 5	debug epc provision	(任意) パケットキャプチャプロビジョニングのデバッグを有効にします。
ステップ 6	exit	特権 EXEC モードを終了します。

例

機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
組み込みパケットキャプチャ	Cisco IOS XE 16.11.1	Cisco Catalyst IE 3200、3300、3400、およびCisco エンベデッドサービス 3300 シリーズ スイッチでの初期サポート

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。